

経営比較分析表（令和4年度決算）

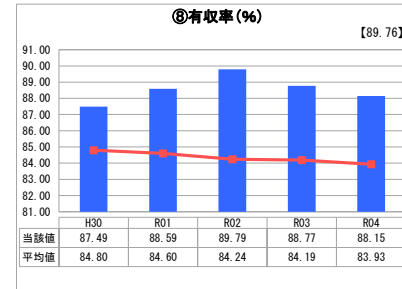
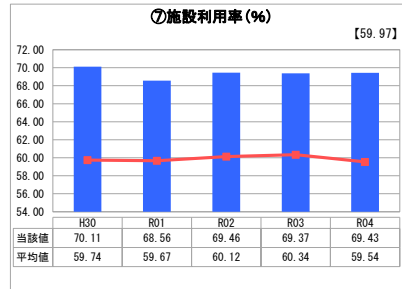
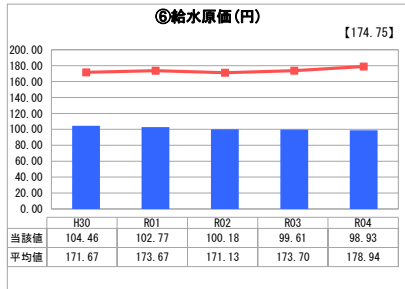
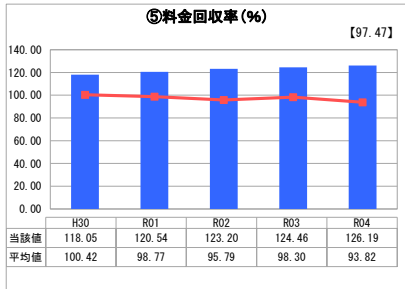
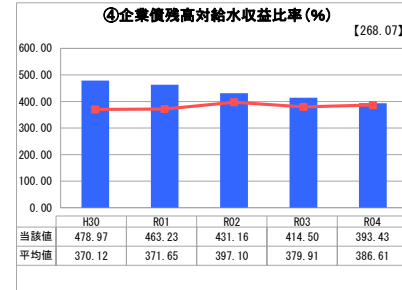
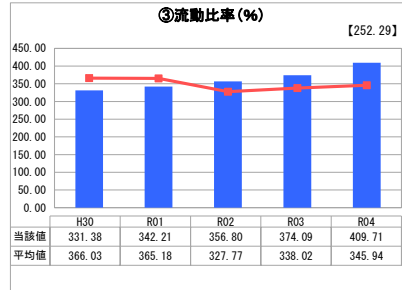
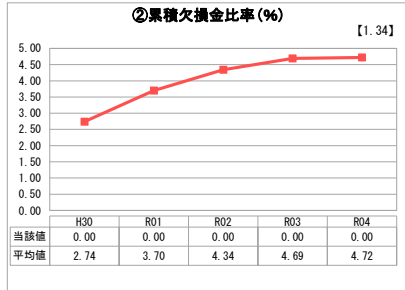
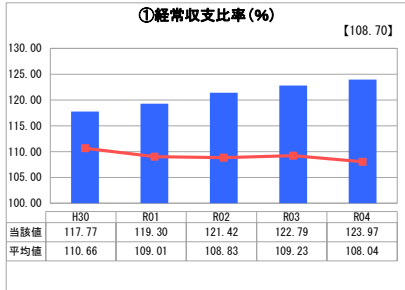
静岡県 吉田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20㎡当たり家産料金 (円)	
-	72.41	95.35	2,266	

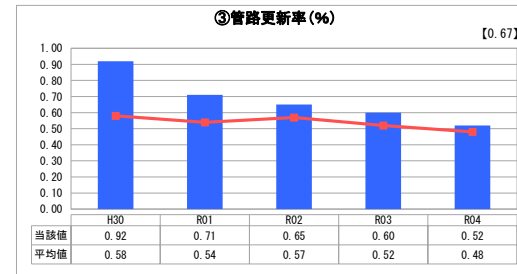
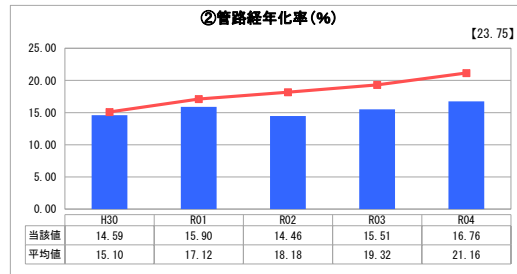
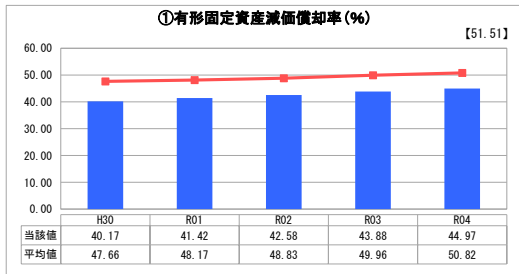
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
29,286	20.73	1,412.74
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
31,764	38.35	828.27

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を超え類似団体平均を上回っており、良好な数値を維持している。収益のほとんどは給水収益であり、健全な経営が保たれている。
 ②累積欠損金比率は、欠損金が生じていないため継続して0%である。
 ③流動比率は、400%を超えており支払能力は十分に備えている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均を超えて若干高い数値となっているが減少傾向にある。企業債残高は配水池、浄水池等の耐震化を進めたために償額が増加した経緯があり、現在は返済額を超えない額を借入額とすることで企業債残高の減少に努めており、今後も継続して計画的に償還していく。
 ⑤料金回収率は、100%を超える水準で推移しており、給水に係る費用の全てを給水収益で賄うことができる。
 ⑥給水原価は、ほぼ横ばいで推移している。水源に恵まれ、給水コストが低く抑えられていることから、類似団体平均値と比較して良好な状態を維持できている。
 ⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、適切な規模での利用を維持できている。
 ⑧有収率は、類似団体平均と比較して上回っているが、減少に転じている。漏水等の無収水量が発生していると考えられる。今後も漏水の可能性の高い材質の管を中心に漏水調査を計画的に実施し、より一層の漏水早期発見、迅速な修繕等の対策を講じる必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より低く、良好な数値であるが、若干の増加傾向で推移している。法定耐用年数に近い管路の割合が増加していることを示しており、老朽化が徐々に進行していると言える。今後も施設や管路を計画的に更新していく必要がある。
 ②管路経年化率は、類似団体平均を下回っているが、前年を上回る結果となっている。事業費の平準化を図りより一層の計画的な管路更新を進める必要がある。
 ③管路更新率は、類似団体平均と比較して上回っており良好な状態であるが、令和3年度から管路更新に加えて施設更新を実施しているため、管路の更新率は低い数値で推移している。

全体総括

経営の健全性・効率性の指標は望ましいとされている数値を満たしており、類似団体平均値と比較しても良好な数値であることから健全な経営状態であると判断できる。
 また、継続的に黒字を確保しつつ、企業債残高を減少させており、効率的な事業運営を実現できている。しかしながら、老朽化は徐々に進行している状況であり、計画的な管路及び施設の更新に取り組む必要がある。
 今後は、物価上昇等による経常経費の上昇も考えられるため、令和5年度に実施している水道事業経営戦略の中間見直しの中で、中長期的な経営・財務マネジメントや基本方針について検討し、より一層の安定した経営に努めていく。